

大雄：大雄支えあいネットの取り組み

(令和2年3月末日現在)

○構成員

民生委員、主任児童委員、福祉協力員、いきいきサロン代表世話人、婦人会、老人クラブ、商工会女性部、福祉施設職員、市職員など（16名）

○定例会開催回数

平成28年度…3回、平成29年度…11回、平成30年度…9回、令和元年度…9回

○生活支援協議体(協議体)の取り組み

全世帯を対象としたアンケート調査の結果において「交流の場が必要」との意見が最も多かったことから、地域に存在する「つどいの場」について、各構成員の取材活動のほか、地域の座談会などを活用しながら情報収集を行っている。なお、把握した交流活動の様子や居場所づくりに活用できる助成金などの情報を全戸配布チラシとして発信した。そして、住民同士のつながりが、より一層深まるとともに、多くの集いの場が他地区にも広がるよう取り組みを進めている。

《主な取り組み》

①地域のつどいの場などの情報収集

以前より隣近所との付き合いが少なくなってきたので、近所で気軽に集まり交流する機会が必要との住民の意見を踏まえて、協議体の都度、住民同士のお茶飲み会や地域の伝承行事などの情報を共有し、つどいの場の周知や充実の方法を検討した。



～情報交換の様子～

②つどいの場に関する広報用チラシの発行

社会参加のきっかけづくりと、つどいの場の活性化をめざし、各地域のつどいの場を開催者の想いと共にチラシで情報発信した。また、つどいの場づくりに役立つ助成金の情報なども併せて掲載している。



～つどいの場等をまとめたチラシ～